

あいさつの力

山口大学教育学部附属山口中学校 副校長 末永 勝明

毎朝8時25分頃になると、学校中の教室から大きな声が聞こえてきます。「おはようございます、こんにちは、お願いします、ありがとうございます、さようなら、失礼します。」生活委員が教卓の横に立ち、朝の会であいさつレッスンなるものを行っています。校庭、中庭、そして周辺の道路にもその声が響きます。

白石地域の協育ネットでは本年度も「あいさつ」を重点的な取組として白石地域の学校の教育支援を推進しています。また、本校では生徒の生活・学習目標として『附中七ヶ条』があり、「あいさつ」はそのひとつに掲げられています。「いつでも、どこでも、だれにでも、場に応じたさわやかなあいさつをしよう」と唱われており、生徒も「あいさつ」を意識した生活を送っています。

ところで、「あいさつ」はしないよりもしたほうがよいにこしたことはないのですが、「いつでも、どこでも、だれにでも」とは、果たしてどこまでその「時と場」、そして「相手」が広がるのでしょうか。私自身、自分が住む地域であれば（名田島という地域性があるのかもしれませんが）、見知らぬ人でも通りがかりにはあいさつをします。一方でたとえば、東京に出張した時に街で出会う見知らぬ人にまであいさつはしません。しかし、ふと考えると、ホテルのエレベーターでは、朝偶然出会う見知らぬ人にも「おはようございます」とあいさつをしています。要は、自分と何らかの関係がある（同じ時間と空間を共有している）、あるいは関係がこれから生まれるかもしれない人には、いくら見知らぬ人であってもあいさつをしているように思います。

学校ではあいさつの励行を生徒に促しています。そもそもあいさつは「あいさつは大事だから誰にでもあいさつをなさい」と教えるべきことなのだろうかという疑問はありますが、あいさつができることが、ゆくゆく生徒にとって生きる術として必要になるという強い思いがあります。生徒には自分が住む地域の人々や登下校で出会う人にはあいさつができるようになってほしいと願っています。もう何年も前のことになりましたが、ある会社の社長さんが教員の研修会で話された言葉が今でも印象に残っています。「新入社員の研修で『あいさつ』を教えなければならない。研修にはお金がかかるが、『あいさつ』は会社がお金をかけてまで教えることか。『あいさつ』は家で教えることか、学校で教えることか、それとも放っておいても自然にできるようになることか。」

この答えは未だに見つかっていないのですが、いずれにしても「あいさつ」ができる人は人から好かれ、かわいがられ、何かあったときには人から助けをもらえる、そんな力をもつのが「あいさつ」ではないでしょうか。白石という地域で学ぶ生徒、そしてその生徒が暮らす家庭、そして生徒が学ぶ地域の人々・暮らす地域の人々、大人も子どももみんな気持ちのよいあいさつが交わせたらなんと素晴らしいことでしょう。



6月の行事予定

- 7日(木) 生徒集会
- 8日(金) 前期教育実習終了
- 9日(土) 山口市中学校選手権大会(10日・16日・17日)
- 12日(火) 3年生習熟度テスト
2年生地域学習(山口大学にて農業体験)
- 13日(水) 中央委員会・眼科検診(2年CD・1年)

- 14日(木) 内科検診(1年)
- 15日(金) 実行専門委員会
- 19日(火) 進路説明会(3年)
- 22日(金) 校内授業検討会
- 28日(木) 避難訓練
- 30日(土) 参観日 PTA親睦球技大会



3年 沖縄学習(4月24日~27日) in 沖縄(伊江島→美ら海水族館→琉球大学→平和祈念公園) 『はじまり』 3年D組 木谷心平

僕が、この沖縄学習で学んだことはたくさんあります、しかし実際に沖縄に行って学んだことが全てではありません。沖縄から山口に戻ってきて初めて、気づくこともたくさんありました。自分の家族など普段あたり前に思っていたことのありがたみを改めて感じる事ができました。しかし、僕はこの沖縄学習はスタートラインだと思います。沖縄学習後にどれだけ学べるかで、この学習の価値が変わると思います。これからはしっかりと、深く学びを続けていきたいです。



『唯一無二の沖縄学習』 3年A組 富金原凜子

私はこの沖縄学習は唯一無二の最高の思い出になったと思います。琉球大学のディスカッションや平和祈念公園では、戦争について、平和について話し合ったり、資料を見たりして考えました。今、私たちが平和に暮らしているからという理由で、どこか遠い話だと思って、ニュースや情報を上辺だけで見ているんだなと思いました。沖縄戦について全てを知ったわけではないのでもっと知り、考えていきたいです。私はこの沖縄学習でコミュニケーションや人と人との出会いの大切さ、今が平和だからこそもっと伝えていかなければならない戦争のおそろしさを知れました。これから生きていく中での1つ1つの出会いを大切に、平和について考えていきたいです。



2年 山大へ行こう(4月27日) in 山口大学

『また、行きたい・・・』 2年A組 樋本あえ佳

「山大へ行こう」のウォークラリーで、ヒントをもとに、山大の敷地内を班の仲間と共に走り回って協力し、答えを探しました。それにより、班内の役割分担などのチームプレーで、さらに仲間との仲が深まり、山大のことをたくさん知れました! 「Youは何しに山大へ?」では、関東や関西、九州に外国と、いろいろな人が山大に集まっているのですが、いろいろな人が、いろいろな目的で通っているとわかりました。勉強はもちろん恋を探しに来たという人も...。私の班はなぞなぞ(?)の答えにたどり着けなかったですが、学食がおいしかったし、みなさん親切だったし、ヤマミの正体が・・・、とたくさんの出来事があり、楽しかったです!!!



『打って一丸となれば、難題は乗り越えられる』 2年C組 吉兼和諒

山口大学での「ヤマミを探せ! ウォークラリー」が心に残っています。制限時間終了間際に放送大学前で違うクラスの3チームと一緒に最後の謎を解いて、最終目的地についたとき、大きな達成感を感じました。この達成感が感じられたのはクラスを超えて仲間と協力し、一つの難題をみんなで解決できたからだと思います。この経験から僕は人と力を合わせると大きなことも成し遂げることができることを学びました。これからも、学年目標である「わらっていい共」をたくさんつくり、学年で力を合わせて厳しいこともチャレンジし、達成していけるように協力したいです。



1年 宿泊学習(4月25日~27日) in 国立徳地青少年自然の家

『仲間とは』 1年D組 大持和弥

僕は宿泊学習で「仲間とは何なのか」たくさん考え気付くことができました。まず、野外炊事の時に、まだ名前も知らなくて、クラスもちがう、となりの班の友達とも協力して、火をつけるコツを教えあったり、火が消えかけた時にまきを分け合ったりしました。そうやって協力していくうちに友情が生まれました。この時、仲間というのは「支えあって共に歩むもの」だと思いました。また、長縄クラスマッチでは、練習でクラスの中で衝突が起きてしまいました。しかし、クラス全員で体育館の外で話し合いをする中で、お互いを理解していくことで仲がより深まり、1つに戻りました。本番、みんなで最後まで心を合わせて跳ぶことでクラスの記録を更新できて、みんなで輪になり涙を流して喜びました。この時にも仲間というのは「みんなで分かちあえること、喜びあえること」とも思いました。宿泊学習で仲間の存在の大きさをたくさん知ることができました。なので、これから3年間を共に過ごす仲間を大切に生活を送っていきたくと思いました。



『KIZUKU』 1年B組 田邊 優

私は、この宿泊学習での一番の収穫は「人間関係を築けたこと」だと思います。よく知らない相手ばかりでも、1つの目標に向かって協力することで、仲を深めることができました。長縄クラスマッチは、どのクラスもめめたけれど最後にはみんなの笑顔がみえ、クラスの絆が深まったきっかけとなりました。また、この学年のいいところ・改善すべきところに「気づく」こともできました。よいところは伸ばして、ダメなところは改善していき、これからの学園生活を有意義なものにしていきたいです。



